



# あすなろだより

2016年 1月20日

発行 三重県立<sup>こども</sup>小児心療センター あすなろ学園 広報担当  
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL. 059-234-8700 FAX. 059-234-9361  
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/



## 年に一度の晴れ舞台!

## あすなろ学園祭

10月25日(日)、『あすなろ学園祭』が開催されました。

『あすなろ学園祭』とは、病棟での日頃の療育活動や分校での学校教育の成果を公開し、ご家族や地域の皆さま、関係機関の方々など学園内外に広くアピールする機会として、毎年秋に開催する“当園最大の療育活動”です。今年度もあすなろ分校との共催で、子ども・職員・教員が一体となり、この学園祭を企画・運営しました。

当日のプログラムは、全員が一緒になって踊る“よさこい”に始まり、太鼓グループによる演奏、各病棟別の舞台発表に加え、飲食店やフリーマーケット、あそびコーナーや作品展示コーナーなどの催し物を行いました。

子どもたちは8月頃から長い時間をかけ、本番に向けて一生懸命取り組んできました。展示作品の制作では、みんなで意見を出し協力し合って共同作品に向かい合いました。一人ひとりが工夫を凝らし、オリジナリティ溢れる個人作品を作る姿には本当に感心させられました。また、学園内外に掲示する案内用ポスターも子どもたちが主体になって作成しました。

太鼓演奏は、学校教育の中でもしっかりとその練習に励みました。始めはバラバラだった音も、集団としてのまとまりが見られるようになってくると、息の合った迫力ある演奏へと変わっていきました。よさこいの練習は毎日夕方に行いました。軽快なリズムに合わせた子どもたちの活気溢れる声は日に日に大きくなり、体を目一杯動かして踊る子どもたちの姿は、すごたくましく感じられました。舞台発表の練習では、台本を片手に必死になってそれぞれの台詞や動きを覚えようとしていたり、当日使用する衣装を一生懸命になって作る姿がとても印象的でした。準備段階の最後として、学園祭の前週には全体リハーサルを繰り返し行いました。この頃には学園全体が学園祭ムード一色となり、子どもたちのみならず職員や教員も期待感に胸を膨らませ、待ち遠しい気持ちになっていきました。



当日はかなりの強風となりましたが、それを吹き飛ばすだけの盛り上がりを見せました。子どもたちは多少の不安や緊張を抱えながらも、一生懸命頑張って練習や準備に取り組んできた成果を、学園祭という晴れ舞台で存分に発揮することができました。見に来ていただいた沢山の観客から大きな称賛を浴びるこの貴重な経験は、子どもたちにとってとても大きな自信と充実感を得る結果となりました。

終了後に子どもたちに感想を聞きました。「みんなで協力し、頑張って作品を完成させることができたので良かった」、「舞台発表がうまくできた」、「みんな一人ひとりの力を発揮できた」等の声上がり、子どもたちが大きく成長した様子が窺えます。学園祭で得た経験を、今後の病棟や分校での生活や退院後の生活に大いに活かしていってくれることを、心から期待しています。



## 夏の思い出!

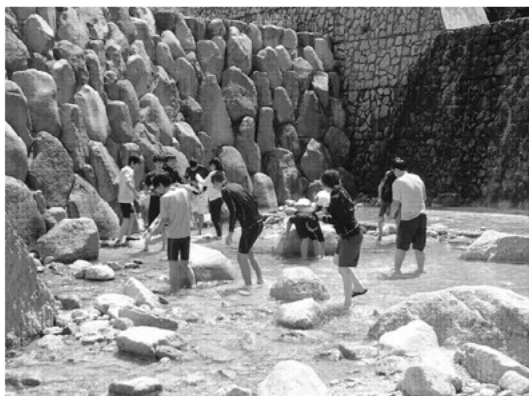
## 治療キャンプ

当学園では、入院治療の一環として、毎年夏に『治療キャンプ』を実施しています。

子どもの発達に見合った遊びを取り入れた活動を企画・運営する取り組み“あそび臨床おもしろクラブ”を行っており、『治療キャンプ』はその活動の一つです。大人があそびのモデルを示し、一緒になって活動に取り組むことで、子どもたちが集団での活動に意欲をもち、ルールを守ることを学んだり、適切に集団行動できる力を身につけていきます。

今年度は中学生を対象とした治療キャンプを8月5日～7日の2泊3日、自然あふれる朝明ヒュッテキャンプ場で行い、10名が参加しました。①非日常的な環境において、遊びを取り入れた様々な体験を通して達成感を味わうこと、②子どもの発達段階や特性に見合ったグループでの活動を通して同年代集団での対人関係スキルを身につけること、をねらいとして取り組みました。

キャンプの準備は1ヶ月前から始めました。未経験の活動に不安を持つ子どもが多いので、事前の集団活動では、様々な職員が子どもたちにキャンプのイロハを伝える工夫をしました。職員は大きく3つの係



に分かれ、子どもたちを支援しました。進行係はメインイベントの御在所岳登山に向けての準備です。事前活動で近隣の山に登ったり、学園周辺を歩いて子どもたちが楽しんで登れる体力づくりをしました。食事係は包丁の使い方や野菜の切り方を示した図を見せて、視覚的にわかるようにしながら実際にカレー作りを指導しました。子ども係は子どもたちと一緒に活動する中で、子どもたちが各自立てた目標を達成できるように励まし、様々な角度から支えました。このようにして準備万端に当日を迎えました。



キャンプ当日は、御在所岳登山が悪天候のため中止となりました。しかし、周辺散策や川遊び等の非日常環境を利用したダイナミックなあそび活動は実施でき、子どもたちの生き生きとした表情を見ることができました。キャンプの醍醐味であるキャンプファイヤーでは、各グループがしっかり練習を積み重ねて、それぞれに工夫を凝らした素晴らしい発表を見せてくれました。この発表を作り上げるために多くの時間を割きました。回を重ねるごとにグループの一員として活発に意見交換する姿がみられ、ある時は他児の意見を素直に受け入れるなど、同年代集団の中で対人スキルを身につける良い機会となりました。みんな自分なりの達成感や満足感を味わうことができ、また一つ成長を感じられました。

治療キャンプは終わりましたが、日常生活は続きます。今後はキャンプで取り組んだ目標の成果を日常生活場面で生かしていくことが大切になります。これからも子どもたちが新たな目標に向かって取り組めるように、日々の支援を続けていきたいと思えます。

治療キャンプは終わりましたが、日常生活は続きます。今後はキャンプで取り組んだ目標の成果を日常生活場面で生かしていくことが大切になります。これから子どもたちが新たな目標に向かって取り組めるように、日々の支援を続けていきたいと思えます。



## あすなろ学園シンポジウムのご報告

7月31日(金)に、30周年記念シンポジウムを開催しました。  
～地域子育て支援の更なる充実をめざして～と題し、450名以上の方にご参加いただきました。

基調講演には横浜市こども青少年局中央児童相談所長の金井剛先生をお迎えしました。その後、「発達障がいの当事者からのメッセージを支援に」というテーマで高校生の堀田耕平さん、社会人の荒田晴紀さんのお二人にご自身の経験をふまえてお話をいただき、討論をしました。

アンケートに「具体的な事例を聞いて良かった」、「未来に希望を持てるパワーをいただいた」など、たくさんの心強い言葉をいただきました。



### お知らせ

来年度の講演会は、平成28年8月26日(金)、  
三重県総合文化センター中ホールにて開催予定です。



## 退職のご挨拶

～3年間ありがとうございました～

谷口（笹岡）佳美 医師



あすなろ学園での約3年間、本当に毎日が楽しくてかけがえのない経験となりました。

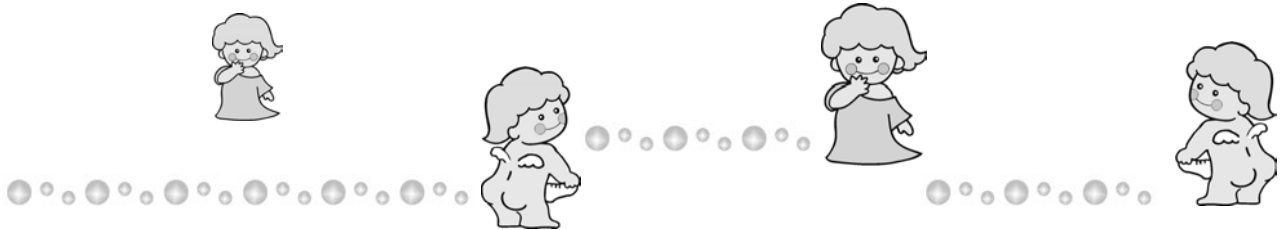
私が児童精神科医になりたいと思ったのは佐々木正美先生著、相田みつを書の「育てたように子は育つ—相田みつをいのちのことば」を学生時代に読んだことがきっかけでした。その際に児童精神科医という職業が存在することを初めて知り、興味を持ちました。そして、十数年前まであすなろ学園に勤務されていた大学の先輩である砂原千穂先生の話聞き、あすなろ学園の存在を知りました。どうすれば私もあすなろ学園で働けるのか医学部6年生のときに総務課に問い合わせをしたことがあります。医師としてステップを踏まないにあすなろ学園には行けないことを知り、大学病院の精神神経科に所属して、あすなろ学園に行ける日を夢見ていました。

その願いがついに叶い、平成24年10月から働くことになりましたが、最初は三重県という全く馴染みのない土地でこども臨床のプロの人たちの中で果たして自分はやっていけるのか不安でいっぱいでした。当時の日記を読み返すと、今思うととっても小さなことに緊張したり、一喜一憂したりする様子が記載されていて、懐かしく思います。

この3年間を振り返ると、医師としてだけではなく、一人の人間としても職員の皆さん、子ども達やそのご家族、関係機関の方々に育てて頂いたなと感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちには未熟な私をよく受容してもらったなと感じます。

もっともっとあすなろ学園で働きたいという気持ちが強くありますが、今後は大阪に戻り、こども臨床を続けていくことになりました。あすなろ学園での経験を大切に、成長を続けていきたいと思ひます。

これからもよろしくお祈いします。本当にありがとうございました。



## 外来診療のご案内

(平成28年1月14日現在)

\* 診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

● 予約電話番号 **059-234-9700**

予約電話  
受付時間  
(月～金) 9:00～12:00  
13:00～16:30

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	西田	大橋	大槻
2 診	大槻	中西	石田	中西	柿元
3 診					
4 診	柿元	中島	中野		中野